

ウエストダーツの縫い開始位置による縫い易さ及び仕上がりの美しさ、指導法に関する検討

—教職課程履修者を調査対象として—

Start position for waist dart sewing to promote ease of completion, finish quality and teaching

For teacher training course students

末弘 由佳理 武庫川女子大学 准教授
白坂 文 大阪夕陽丘学園短期大学 准教授

Yukari Suehiro Associate Professor,
Mukogawa Women's University
Aya Shirasaka Associate Professor,
Osaka Yuhigaoka Gakuen College

概要

洋裁の技法のひとつであるダーツの縫製方法として、ダーツ口は返し縫い、ダーツ先は縫い消して仕上げる方法が広く用いられている。

本稿では、対象者を教職課程履修者として、ダーツの縫い開始位置をダーツ口、ダーツ先の二者にした場合において、縫い易さ、仕上がりの美しさ、指導法として適する方法について調査し、ダーツの縫い開始位置に着目してダーツの縫製方法について検討することとした。

1. ダーツの縫製方法

ダーツの縫製方法を教授する際に、ダーツ口、ダーツ先いずれを縫い開始位置として指導しているかについて、大学において被服構成学実習関連科目担当経験者である30～60歳の教員22名に先行調査を行った。

調査方法は、口頭及びメールによるヒアリング形式であるが、実施した結果、22名全員が「ダーツ口を縫い開始位置として指導している」との回答であった。

この22名の教員はダーツ口を縫い開始位置とし、ダーツ先を「縫い消す」縫製方法を学んできている。ダーツ先を縫い消す方法については、ダーツ先の縫い位置を徐々に細くカーブさせながら最終的には消していく縫製技法であり、慣れを要するが、ダーツを美しく縫うためには必要な技術といえる。初心者の場合、ダーツの先端にくぼみができたり、ミシンの糸調子が悪くなり糸が絡んだりトラブルも起こり易く、ダーツを縫い消す技術の習得は、ある程度時間をかける必要があるが、教員として自身が学んできた美しく縫製するための「縫い消す」方法で教授しているという現状がある。

しかしながら、この内2名からは、「自身で縫製する際にはダーツ先を開始位置にしている」や「工業用では（ダーツの）場所によってはダーツ先を開始位置とすることもある」との意見も聞かれた。

大学の被服構成学実習関連科目¹⁾において、授業用の教科書として指定している書籍^{2) 4)}の中には、ダーツの縫製として、ダーツ口は返し縫いが必要であることと、ダーツ先は返し縫いをせずに糸を長く残して結ぶこととの指示が掲載されているが、どちらを縫い開始位置にするかについては指定がなされていない。

一方で、ダーツの縫製に関して記している書籍の中には、縫い開始位置がダーツ口であることを記載しているもの^{5) 20)}、反対にダーツ先からである旨を記載している書籍^{21) 23)}、ダーツ先・ダーツ口の両者を掲載している書籍^{24) 25)}などさまざまであり、このことから一概にどちらが正しいということは無いと判断することができよう。

2. 2種類の方法によるダーツの縫製

ダーツの縫い易さ、仕上がりの美しさ、指導法として適する方法を検討する目的で、教職課程履修者43名（中学校・高等学校教諭一種（家庭）28名、中学校教諭二種（家庭）7名、小学校教諭一種及び中学校教諭二種（家庭）8名）を被験者として、2種のダーツ縫いを実施し、その縫い易さ、仕上がりの美しさ、（将来、教員になった際に）指導法として適する方法に関するアンケート調査を実施した。

2-1 ダーツの縫製

ダーツを縫製するために使用した布は、被服構成学実習で使用する仮縫い用生地、薄手シーチング²⁶⁾（綿100%）を用いた。図1に示すように、地の目方向をたて方向として、たて15cm、よこ25cmにカットし、たて方向に半分に折り、折り山（わ）の部分にダーツを模した線を赤ペンで記したものを準備し、試験布として共通に配布した。ダーツのサイズは、スカートの前ウエストダーツに用いるミドルヒップラインをダーツ先とする際の平均的な深さ²⁷⁾である9.0cm、幅においては3.0cmとした。

図1に示す右側が折り山（わ）のものをダーツ口開始位置縫製用とし、ダーツ先開始位置縫製用としては、折り山（わ）を軸にして反転したものとした。なお、図1に示す寸法を示す数値及び地の目線は配布した試験布には記していない。

被験者に対するダーツの縫製方法の説明としては、ダーツ口を縫い開始位置とする方法、ダーツ先を縫い開始位置とする方法をそれぞれイラスト及びテキストで解した図2を印刷媒体として各自に配布した。

縫製に使用したミシンは、各大学の実習室に設置しているもの（本研究の被験者は計3大学に在籍する学生）であり、職業用ミシン或いは家庭用ミシンである。ミシン針は11番、糸はポリエステル糸60番、ミシンの縫い目間隔は0.2cmを統

キーワード：ダーツ先、ダーツ口、ダーツ止まり、ミシン縫い

一条件とした。

大学間でミシンの機種が異なることから同一条件ではないとの懸念も考えられるが、本実験は被験者が自身の環境において2者間の比較をするため、ミシンの機種による違いは影響しないと考えられ、本研究においてはミシンの機種については言及しないこととした。

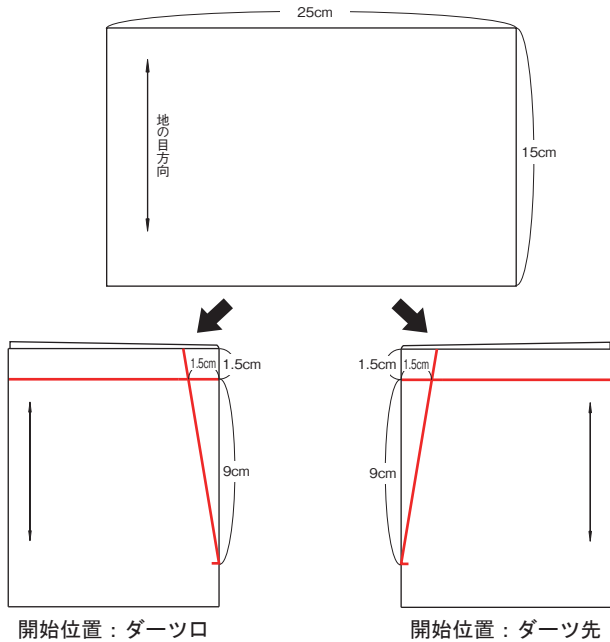


図1 ダーツの縫製に使用した布（試験布）

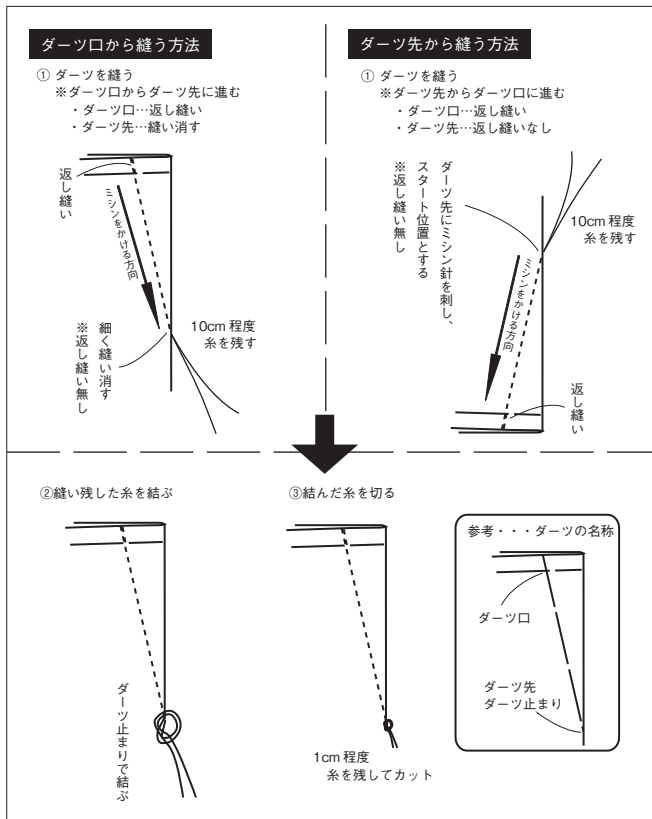


図2 ダーツの縫製方法の解説

2-2 縫い易さ、仕上がりの美しさ、指導に使用したい教授法

縫い開始位置の異なる2種類のダーツ縫い終了後に、以下に示す①～⑤の5つの設問について、それぞれ5件法（表1）を用いての回答と記述式で2種類のダーツ縫製に関する考察を得た。

- ① 縫い易さ（ダーツ口）
- ② 縫い易さ（ダーツ先）
- ③ 完成度（仕上がりの美しさ）自己評価（ダーツ口）
- ④ 完成度（仕上がりの美しさ）自己評価（ダーツ先）
- ⑤ 将来、教師になり生徒に指導する際にこの方法（縫い方）で教えようと思う

表1 縫い易さ、仕上がりの美しさ、指導法の評価

設問	選択肢				
縫い易さ	1. 大変縫いにくい	2. 縫いにくい	3. どちらでもない	4. 縫い易い	5. 大変縫い易い
完成度	1. 全くきれいにできなかった	2. あまりきれいにできなかった	3. どちらでもない	4. きれいにできた	5. 大変きれいにできた
教授法	1. 全くそう思わない	2. そう思わない	3. どちらでもよい	4. そう思う	5. 大変そう思う

被験者43名から得られた回答を図3には5段階評価の結果を割合で示し、表2には平均値及び標準偏差を示す。また、表3に示す値は、2つの母平均の差の検定により算出された検統統計量である。

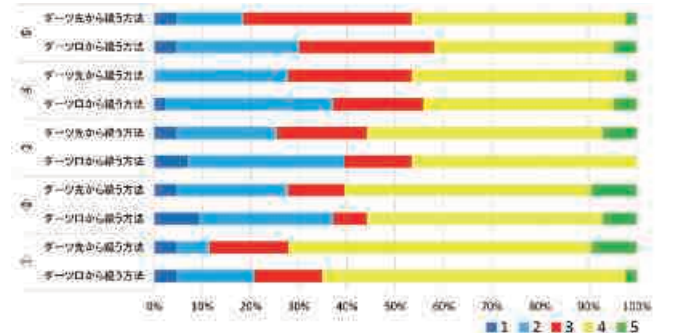


図3 ダーツの縫製2種に関するコメントに記載されたキーワード (n=43)

表2 縫い易さ、仕上がりの美しさ、指導法の平均値及び標準偏差 (n=43)

	縫い易さ (ダーツ口)		縫い易さ (ダーツ先)		完成度自己評価 (ダーツ口)		完成度自己評価 (ダーツ先)		指導者として使用したい教授法	
	口	先	口	先	口	先	口	先	口	先
平均値	3.42	3.05	3.16	3.37	3.00	3.33	3.09	3.21	3.12	3.28
標準偏差	0.846	0.912	1.180	1.079	1.034	1.028	1.007	0.876	0.993	0.892

表3 t検定により算出した有意確率（両側） (n=43)

	縫い易さ (ダーツ口)	縫い易さ (ダーツ先)	完成度自己評価 (ダーツ口)	完成度自己評価 (ダーツ先)	指導者として使用したい教授法
有意確率 (両側)	0.255	0.399	0.152	0.574	0.500

全ての設問において、ダーツ先を開始位置にした場合に平均値が高く、ダーツ先を開始位置にした場合に、縫い易く、

完成度が高く、他者に教授する際に用いたい方法であると判断した。

これらの値を用いてt検定による解析をした結果、いずれの設問においても有意な差はみられず、統計的には差が無いとの結果であった。

以下のA)～F)は、自由記述欄のコメントの一部(下線は筆者)である。なお、これらは原文ままを、一部抜粋したものである。

また、記載されたコメントからどちらの縫い方が縫い易く、きれいに仕上がったかを判断した結果を図4に示している。

- A) ダーツ先から縫う方が最初返し縫いせず、最後に返し縫いすることで縫う場所も見えるので縫いやすいと思った。
- B) ダーツ口から縫った方は返し縫いの時に先が見えなくてしづらかった。
- C) ダーツ口から縫うとダーツ先にきれいに行かなくてずれてしまったので、最初にダーツ先にゆっくり針をおろせる方がきれいに縫えるなあと思いました。
- D) ダーツ先の方が縫い始めの面積が小さかったためか、線からそれてしまって少し縫いづらいつと感じた。
- E) ダーツ先から縫うと、はじめに針をさすのがやりづらかった。針をさす時に、左右両方に布がある方が良いと思う。
- F) ダーツ先から縫う方が、針をさして縫えるのでダーツ先が縫いやすかった。

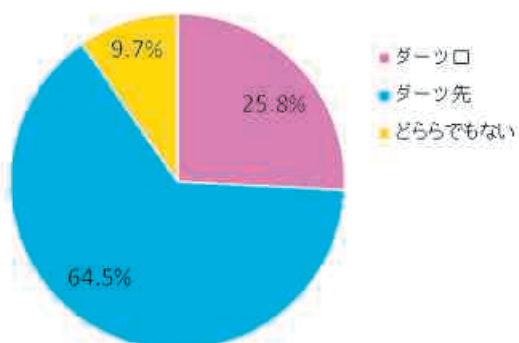


図4 縫い易さ及び美しく仕上がった縫い開始位置 (n=31)

3. 考察

5段階評価(表2参照)では、ダーツ口を開始位置とした場合とダーツ先を開始位置とした場合に統計的な有意差はみられなかったが、コメントから読み取るとダーツ先を開始位置とした場合が64.5%、ダーツ口は25.8%と二倍以上の差があり、数値のみでは分からなかった結果を確認することができた。

図5には、記載されたコメントからキーワードを抽出したものである。なお、各自のコメントの中からキーワードと判断したものを全て抽出しており、一人当たりの最大数は結果として3ワードであった。2者比較する際に、どちらを縫い易いと感じたか、その理由としては、ダーツ先、ダーツ口といった各ポイントの見え易さや、ポイントへの針の合わせ易さ、返し縫いのし易さ、そこには布の面積が関係すること等が読み取れた。

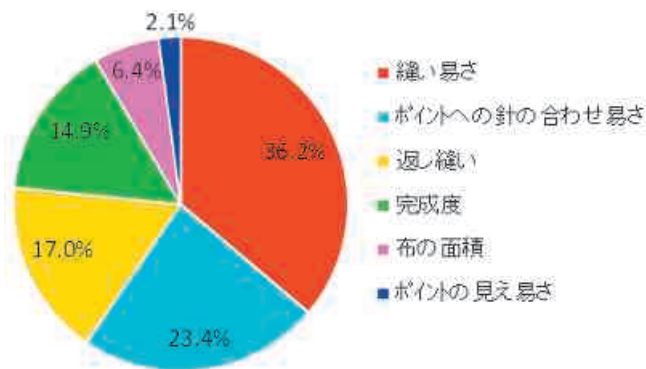


図5 ダーツの縫製2種に関するコメントに記載されたキーワード (n=31)

図3に示す評価4及び5の回答割合は、①～⑤の全設問において、ダーツ先を開始位置にした場合に高い。また、評価5に着目すると、①、②の縫い易さに関する設問では、ダーツ先を開始位置にした場合に高く、B)、F)のコメントが内容として該当する。一方で、D)、E)はダーツ口を開始位置とした方が縫い易いとの内容を記載している。ダーツ先を開始位置とした場合に評価5と回答した被験者のダーツ口を開始位置とした場合の評価に着目すると、①においては、評価4と5と回答しており、平均値は4.5である。②は評価1.2.4であり、平均値は2.8である。このことから、①のダーツ口の縫い易さにおいては、ダーツ先を開始位置とした場合が大変縫い易いが、ダーツ口を開始位置とした場合にも縫い易かったことが分かる。反対に②のダーツ先の縫い易さでは、ダーツ先を開始位置とした場合が大変縫い易く、ダーツ口を開始位置とした場合はどちらかという縫いにくいとの判断であったことがうかがえる。

③のダーツ口の完成度では、ダーツ口を開始位置にした場合に、5の回答者はゼロであった。このことから、ダーツ口の完成度についてはダーツ先を開始位置とした場合に満足度が高いことがうかがえ、これはコメントA)、B)にある返し縫いのやり易さに起因することが予想できる。さらに、③と④の設問に着目すると、ダーツ先の完成度を測定した④においては、ダーツ口を開始位置とした場合に評価5の割合が高く、ダーツ先の完成度を測定した③においてはその逆である。

4. まとめ

我々教員が従来より縫製方法として教授してきた、ダーツ口を縫製開始位置とするより、被験者の多くはダーツ先を縫い開始位置にした方が、縫い易く、また仕上がりが美しいと考えており、指導者として使用したい教授法としても、ダーツ先を選択していることが明らかとなった。

しかし、従来から用いられたダーツ口を縫製開始位置とし、ダーツ先を縫い消すという縫製方法は重要な技能であり、本研究から得られた結果を経て、ダーツ先を開始位置とする方法のみを一様に教授することがベストであるとの考えは危険であろう。一方で継承されてきた方法だけではなく、様々な方法に注視することの重要性があると考えられる。

昨今の生活環境下での被服製作体験の減少、小・中・高等

学校における家庭科の時間数削減等の背景を鑑み、大学教育においても従来の縫製方法を継承するだけではなく、時代に即した方法や、学生更には学生が教授する立場になることを考えた際に、児童・生徒たちにとってより教育効果が得られる方法を目指し、そのための知識・技術を習得できることを念頭に指導の方法を模索したいものである。

5. 補記

本稿の一部は日本家政学会関西支部第40回研究発表会で口頭発表した内容²⁸⁾である。

謝辞

本研究を進めるにあたり、武庫川女子大学研究支援員の渡邊美幸さんに大変お世話になりました。また、実験及びアンケート調査にご協力くださいました神戸松蔭女子学院大学、兵庫教育大学、武庫川女子大学の学生の皆様に深く御礼申し上げます。

注及び参考文献

- 1) 武庫川女子大学において開講される被服構成学実習関連科目
- 2) 大沼淳：文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ文化服装学院編，文化出版局，2009
- 3) 日本衣料管理協会出版部：アパレル設計実習アパレル生産実習，日本衣料管理協会，2019
- 4) 今松禮子他3名：大学課程 被服構成，建泉社，1984
- 5) 内藤朗：改訂版洋裁，ブティック社，208, 2008
- 6) 中屋典子，三吉満智子：服装造形学技術編Ⅰ，文化出版局，103, 2010
- 7) 佐藤貴美枝：アイテム別部分縫い集vol.1スカート&パンツ編，文化出版局，6, 2005
- 8) 文化服装学院編：改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース，文化出版局，54, 2009
- 9) 水野佳子：きれいに縫うための基礎の基礎，文化出版局，110, 2010
- 10) 猪又美栄子他7名：高等学校家庭科用文部科学省検定済教科書被服製作，実教出版，81, 2011
- 11) 伊東茂平，伊東孝，伊東茂平：洋裁研究（上），婦人画報，156, 1966
- 12) 文化服装学院編：誌上・パターン塾vol.2スカート編，文化出版局，122, 2016
- 13) 文化出版局編：生活とソーイング⑥キュロットとパンツ，文化出版局，7, 1993
- 14) 文化出版局編：裁ち方・縫い方の質問集，文化出版局，194, 1997
- 15) 水野佳子：ソーイングきほんの基本，高橋書店，72, 2014
- 16) 八角節子：縫い方の基礎の基礎，文化出版局，101, 1999
- 17) 文化出版局編：縫い方いろいろ相談室，文化出版局，14, 1991
- 18) 藤森治郎：ドレメファッション造形講座③スカート・パンツ，ブティック社，9, 2001
- 19) 本郷美枝：服飾造形，東京家政大学出版部，90, 1995
- 20) 一番ヶ瀬康子，村田泰彦他31名：家庭一般—生活をつくる—，一橋出版，178, 1997
- 21) 服装造形学科編：文化学園大学 ファッション造形学講座③春

- 夏アイテムⅠ ブラウス/スカート，文化出版局，84, 2015
- 22) 大石真一：洋裁の実技全書，文化出版局，274, 1974
- 23) 片山芳子：被服製作実習，実教出版，26, 2000
- 24) 猪又美栄子他7名：ファッション造形基礎，実教出版，118, 2017
- 25) 猪又美栄子他7名：被服製作，実教出版，81, 2011
- 26) お裁縫.com，<https://osaihou.com/>（2021/6/5）
- 27) 大沼淳：文化ファッション大系改訂版・服飾造形講座②スカート・パンツ文化服装学院編，文化出版局，24, 2009
- 28) 末弘由佳理，白坂文：ダーツの縫い始め位置の違いが仕上がりに与える影響，日本家政学会関西支部第40回研究発表会研究発表要旨集2018年度，13, 2018